

- Amer. meteor. Soc., 47, 200-220.
 小倉義光, 1966: 地球大気研究計画について. 天気, 13, 225-230.
 小倉義光, 1967: 「地球大気開発計画 (GARP) 研究会議」印象記. 天気, 14, 379-388.
 小倉義光, 1968: GARP 組織委員会 第1回会合報告. 天気, 15, 473-476.

- 柳井迪雄, 1967: 熱帯気象学の展望. 天気, 14, 73-91.
 National Center for Atmospheric Research, 1966: The Line Islands Experiment. 13pp.
 Garstang, M., and N.E. La Seur, 1968: The 1968 Barbados Experiment. Bull. Amer. Meteor. Soc., 49, 627-635.

北海道支部だより

昭和43年度北海道支部研究発表会開催

昭和43年度北海道支部研究発表会が北部管区気象研究会と共催で、さる12月10日札幌管区気象台会議室で開催された。午前中は一般研究7編が発表され、午後は北海道大学井上力太教授の特別講演のあと、集中豪雨と豪雪に関するシンポジウムが行なわれ内容の充実した発表会であった。

出席者は気象台職員のほか北海道大学、開発建設局の関係者等約100名を越え、活発な質疑が行なわれた。

各発表題目と氏名は次のとおり。

一般研究発表

1. 村松照男 (札幌高層): 気球の地形の影響による異常上昇
2. 八木正允 (札幌予報): 札幌におけるオゾン量の変動と大気平均流の相関について
3. 大浦流文・小林大二・小林俊一 (北大低温): 地ぶきについての二・三の観察
4. 山本 晃 (旭川地台): 工場雪 (旭川特産の雪)
5. 李 柁雨 (北大 理): ステレオ写真解析方法によるレーダーエコーの微細構造の研究

6. 石岡武徳 (根 室 測): VFR帯の異常伝播について
7. 山崎 武・孫野長治 (北大 理): 季節風の地形効果に関するモデル実験

特別講演

井上力太 (北大 工): 米国の大気汚染全国センターの研究について

集中豪雨と豪雪に関するシンポジウム

座 長 粕谷光雄

話題提供

1. 集中豪雨
 - (1) 松本誠一 (気 研): 昭和42年西日本豪雨のメソ解析
 - (2) 小倉士郎 (札幌予報): 北海道の集中豪雨
 - (3) 高橋浩一郎 (札幌 幌): 強雨強度の統計的構造
2. 大 雪
 - (1) 孫野長治 (北大 理): 米国の臨湖の降雪
 - (2) 松本誠一 (気 研): 北陸豪雪についての二・三の話題

西穂高岳落雷遭難事故調査報告書

1969年3月刊

非売品であるが、希望者には実費で頒布している。

1. 実費1,000円+送料100円=計1,100円
2. 申込先

〒390 松本市蟻ヶ崎 3-8-1 松本深志高等学校
 電話松本 (02634) —2—0003, 0922

3. 体 裁 B 5 版 370 頁 (図表写真500余枚)

昭和42年8月1日、同校教官生徒 46 名他一般登山者が西穂高岳の通称「独標」で電撃を受け、死亡11名、重軽傷13名をだした事故の徹底した調査報告書である。

同校教官7名で組織された委員会が1年半の歳月を費して調査報告したもので、このときの落雷の実態および

長野県松本深志高等学校

これに関連する諸問題をもうこれ以上は、調べようがないところまで調べあげ、今後の研究資料として同校から出版されたものである。

全部で5編あるが、IV資料編のなかには本誌第14巻第12号に載った井村宇一郎氏の論文も加筆の上再録されており、その他関係資料のほとんどが網羅されていて落雷問題に関心をもつものは是非備えるべきであろう。

Ⅲ寄稿編は、畠山久尚氏が序を書き、気象、電気、医学、登山等の専門家多数の寄稿が含まれている。

(久米庸孝)